

平成30年6月分 登録薦土工基幹技能者 新規講習試験問題

問題1 基幹技能者が行うOJT教育に関する次の記述で最も不適当なものを1つ選びなさい。

- ① OJTは基幹技能者の仕事そのものと認識する。
- ② 基幹技能者の能力レベルに合わせて目標を定める。
- ③ 仕事のペースを落とさずOJTを行う努力をする。
- ④ 外部との接触機会を与える努力をする。

問題2 社会保険に関する記述として最も不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 社会保険は元請との契約では法定福利費の一部である。
- ② 労災保険は現場毎に元請が加入していても下請事業所は加入する必要がある。
- ③ 雇用保険は労働者が失業した時に給付を受けるので労使双方で費用負担する。
- ④ 建設業では社会保険や労働保険の加入は強制ではない。

問題3 基幹技能者の役割として不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 現場の状況に応じた施工方法の提案、調整を行うこと。
- ② 技能者の適切な配置、作業方法の確立等を行うこと。
- ③ 技能者に対する指示、指導を行うこと。
- ④ 前工程、後工程に対し自社の利益を最優先に調整を行うこと。

問題4 基幹技能者に必要な資質として望ましくないものを1つ選びなさい。

- ① 約束したことを守る。
- ② 難局にも決断力をもって立ち向かう。
- ③ 反対意見に対しては常に自分の考えの正当性を主張する。
- ④ 作業員に対し厳しさの中にもあたたかい配慮をする。

問題5 次の記述のうち、コンプライアンス上問題のある行為を1つ選びなさい。

- ① 足場上での作業で、足場の点検をしてから作業を開始した。
- ② 作業終了時に、資機材の片付け状況を確認した。
- ③ 現場の搬入禁止時間帯を避けて、資材を搬入した。
- ④ いつも取引している協力会社なので、着工後に注文書を発行した。

問題6 建設工事の特性について述べた次の中で最も不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 現地生産のため社会的制約を受ける。
- ② 目的物が土地に固着して作られるので不良品の処置が容易である。
- ③ 風雨など自然現象の影響を受けやすい。
- ④ 建設工事は受注生産でそれぞれ特徴が異なる。

問題7 基幹技能者が行う施工管理の手法として最も不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 工期を守るため常に多めの人員を投入する。
- ② 施工状況の確認をこまめに行い品質を確保する。
- ③ 効率的な作業方法を考え工事費を抑える。
- ④ 作業手順書を周知させ安全を確保する。

問題8 仮設に関する次の記述で最も不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 仮設は工事完成後、原則撤去される。
- ② 仮設であっても手抜きがあってはならない。
- ③ 指定仮設といっても特に指定された設計図書はない。
- ④ 仮設は使用期間を十分考慮し設置後の工程に悪影響を与えない工夫をする。

問題9 各種工程表を説明した記述で、不適当なものを1つ選びなさい。

- ① バーチャート工程表は、工期に影響を与える作業がどれか解りにくい。
- ② ガントチャート工程表は、各作業の所要日数が解りやすい。
- ③ グラフ式工程表は、出来高の進捗状況を示すのが一般的である。
- ④ ネットワーク式工程表は、各作業の相互の関係が解りやすい。

問題10 工程計画の基本的な作成順序として、最も基本的なものを1つ選びなさい。

- (A) 実施工程表の作成
 - (B) 機械、設備の規模・台数の決定
 - (C) 各工程の施工順序の決定
 - (D) 各工程に必要な作業日程の算定
- ① (A) → (B) → (C) → (D)
 - ② (B) → (C) → (D) → (A)
 - ③ (C) → (D) → (B) → (A)
 - ④ (D) → (C) → (B) → (A)

問題11 資材管理に関する記述として不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 発注計画の事前調査では大型車両の乗り入れの可否等を調査する。
- ② 資材は使用時期より1か月前に搬入する計画を立てる。
- ③ 輸送計画で勘案することは資機材の種類、大きさ、重量、経路等である。
- ④ 資材倉庫は工期途中での移動が少ない場所を選定する。

問題12 専門工事業者の原価管理に関する記述として不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 材工で請負った場合には労務の管理は無視して考える。
- ② 材料費、労務費、リース料等を含み原価の組立を行う。
- ③ 労務に関する実行予算数量を人工に置き換えると管理しやすい。
- ④ 元請のミスで発生した手待ちは元請と交渉し損失が発生しないようにする。

問題13 原価管理に関する記述として不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 工事現場が複数ある場合は全体で利益を出すよう計画する。
- ② 工事の進捗と実行予算を日々確認する。
- ③ 「見積り」とは概算または詳細な数量積算により工事費の予測を行う作業である。
- ④ 実行予算の作成は契約後に現場条件に合わせた施工計画の検討が必要である。

問題14 原価管理の記述として不適当なものを1つ選びなさい。

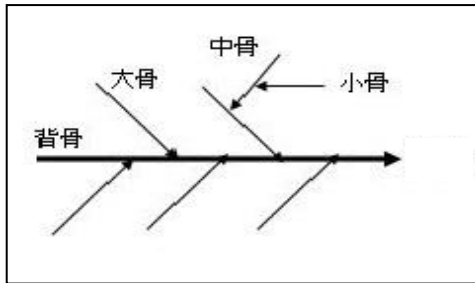
- ① 契約は必ず工事着工前に行う。
- ② 実行予算は工事着手後に作成する。
- ③ 見積書の経費には社会保険料の企業負担分も含む。
- ④ 契約外工事の記録には作業日報が効果的である。

問題15 以下の記述として、不適当なものを1つ選びなさい。

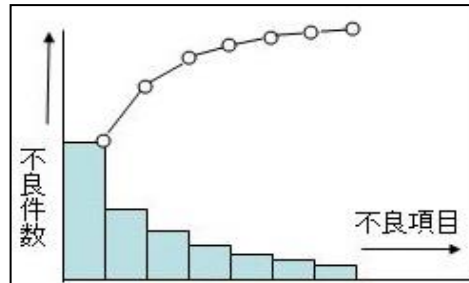
- ① コンプライアンスとは、法令遵守のことである。
- ② 管理の基本は、PDCAサイクルを繰り返し実行することである。
- ③ 瑕疵担保責任は、建物引渡し以降に発生する。
- ④ 品質管理とは、品質を最優先にして物を作り出すことである。

問題16 「QC七つ道具」とその名称の組み合わせで、間違っているものを1つ選びなさい。

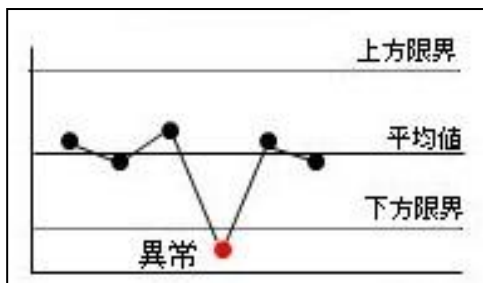
- ① 図A — 特性要因図
- ② 図B — パレート図
- ③ 図C — 散布図
- ④ 図D — ヒストグラム



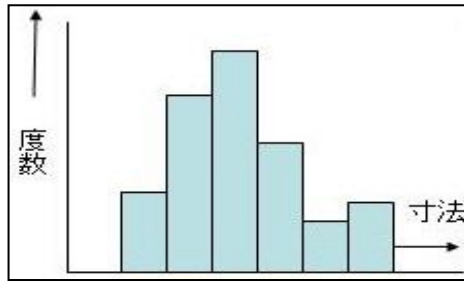
図A



図B



図C



図D

問題17 新規入場者への対応として最も不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 新規入場時には健康診断が義務付けられている。
- ② 新規入場者教育ではその現場特有の注意事項は必ず伝える。
- ③ 本人の作業経験を確認し無理のない役割分担を行う。
- ④ 新規入場者それぞれの保有資格は必ず資格証原本で確認する。

問題18 移動足場に関する記述として不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 作業床には一人に限り人を乗せて移動できる。
- ② 作業床の手すりは高さ85cm以上で中さんを設ける。
- ③ 作業床周りの幅木は高さ10cm以上のものを取り付ける。
- ④ 作業床上で脚立やはしごを使用してはならない。

問題19 主任技術者に関する記述として不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 元請は請負った工事には主任技術者を配置しなければならない。
- ② 下請は請負った工事には主任技術者を配置しなければならない。
- ③ 主任技術者は元請と一次下請が配置すれば二次以下の下請は配置する必要がない。
- ④ 主任技術者は請負った会社との直接的な雇用関係がなくてはならない。

問題20 労働災害の事例分析で、ハインリッヒの法則の意味について説明した次の文章の（ ）に入る数値で正しいものを1つ選びなさい。

1件の重大災害（死亡・重傷）が発生する背景には、（A）件の軽微な事故と（B）件の怪我や事故に至らなかったヒヤリ・ハットで終わった事例がある。

- | | A | B |
|-------------------------|----|-----|
| ① | 1 | 99 |
| ② | 25 | 100 |
| <input type="radio"/> ③ | 29 | 300 |
| ④ | 99 | 300 |

問題21 安全衛生管理に関する記述として最も不適当なものを1つ選びなさい。

- ① ヒヤリハットの原因を追究し対策を徹底する。
- ② 災害の予防的な取り組みをする。
- ③ 災害発生はその責任者の追求を優先する。
- ④ 危険度の高い作業は徹底的に検討し計画・実行する。

問題22 建設業法に関する記述として最も不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 請負った下請工事は一括して他人に請負わせてはならない。
- ② 施工体制台帳は工事現場ごとに備え置かなければならない。
- ③ 一次下請業者が再下請する時には元請に通知しなければならない。
- ④ 施工条件が不確定な工事の場合、下請とは着工後に契約してよい。

問題23 労働安全衛生関係法令で、作業主任者を選任しなくてよい作業を1つ選びなさい。

- ① つり足場の組立又は解体の作業
- ② 軒の高さが5 m以上の木造建築物の構造部材の組立作業
- ③ 高さが5 m以上の平屋の鉄骨造建築物の組立作業
- ④ 高さ5 m以上の建設用リフトの組立又は解体作業

問題24 赤伝処理に関する次の記述のうち、最も不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 元請と下請の双方の協議・合意が必要である。
- ② 元請はその内容を見積条件・契約書面に明示する。
- ③ 元請は下請に通知すれば、算出根拠が不明でもよい。
- ④ 元請から安全協力費の負担を求められたので合意した。

問題25 労働安全衛生関係法令における足場の規定として不適当なものを1つ選びなさい。

- ① 足場の組立て等の作業に従事する労働者に対して特別教育が義務づけられている。
- ② 足場の高さ2m以上の作業床の床材と建地とのすき間は12cm未満とする。
- ③ 足場の高さ2m以上の作業床は幅が30cm以上、すき間3cm以下である。
- ④ 足場板を長手方向に重ねる時は支点の上で20cm以上重ねる。

次のページに記述式問題があります。 必ず記入してください。